

別添6 環境保全対策の実施状況

予測評価書において記載した工事中の環境保全対策の実施状況について、造成工事等の一時的な影響及び建設機械の稼働に関する環境保全対策の実施状況は表 6-1(1)～(3)に、工事用車両の走行に関する環境保全対策の実施状況は表 6-2(1)～(2)に示すとおりである。

表 6-1 (1) 造成工事等の一時的な影響及び建設機械の稼働に関する環境保全対策

予測評価書の記載事項		実施状況	写真等
該当項目	環境保全対策		
大気汚染	工事区域周辺は工事用仮囲いを設置する。	工事区域周辺は工事用仮囲いを設置した。	
大気汚染	建設中の構内道路への散水や鉄板の敷設等を行う。	構内道路への散水や鉄板の敷設等を行っている。	 
大気汚染、温室効果ガス	施工方法や工程等を十分に検討して建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。	月に1回開催している災害防止協議会等で施工方法や工程等を十分に検討して建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努めている。	
大気汚染、温室効果ガス	使用する建設機械は、排出ガス対策型の建設機械の採用に努める。	使用する建設機械は、排出ガス対策型の建設機械の採用に努めている。	
大気汚染、植物・動物・生態系	建設機械のアイドリングストップを徹底する。	月に1回開催している安全大会等で建設機械のアイドリングストップを徹底するため、作業員へ資料の配布による周知や、教育等を実施している。	

表 6-1 (2) 造成工事等の一時的な影響及び建設機械の稼働に関する環境保全対策

予測評価書の記載事項		実施状況	写真等
該当項目	環境保全対策		
水質汚濁、植物・動物・生態系	工事中には、実施区域内に仮設沈砂池を設け、雨水等を一旦貯留し、濁水の土砂を沈降させた後に上澄みを放流するとともに、仮設沈砂池は適宜浚渫を行い、容量の確保に努めることとする。	実施区域内に仮設沈砂池を設置した。なお、水が放流管に達する前に地面に浸透しているため、現段階においては、放流に至っていない。 ※現在は、調整池工事が完了したため、調整池を利用しており、調整池工事完了までは、調整池の北側に仮設沈砂池を設置した。(p.7 参照)	
水質汚濁	コンクリート工事に伴い発生する排水による影響は環境基準内（水素イオン濃度 8.5 以下）に中和処理を行った後排水する。	コンクリート工事に伴い発生する排水は、パレット等に貯留し、硫酸バンドにより環境基準内（水素イオン濃度 8.5 以下）に中和処理を行った後排水している。	
地盤沈下・水象	ごみピット部分の深い掘削を行う箇所は、遮水性の高い山留壁等を用い、地盤の安定性を確保し、帯水層からの湧水の抑制及び掘削底部から回り込む地下水の流入を防止する。	ごみピット部分の深い掘削を行う箇所は、SMW 工法^{注1}による遮水性の高い連続壁を用い、地盤の安定性を確保し、帯水層からの湧水の抑制及び掘削底部から回り込む地下水の流入を防止した。	
地盤沈下・水象	地下水位については、工事着工前から工事完了後の一定の期間において観測を行う。	地下水位測定を 2 か所で実施し、掘削工事による地下水への影響がないことを確認した。	 調査地点図 

注 1) 地盤沈下・水象の環境保全対策について、令和 5 年にごみピット部分の深い掘削工事は実施済みである。また、掘削工事に合わせて地下水位の観測をし、観測結果は、第 3 回事後調査報告書において報告済みである。
(写真は過去の報告書で使用したものと同様)

注 2) SMW 工法：遮水性の高い山留壁等を用い、地盤の安定性を確保することで、帯水層からの湧水の抑制及び掘削底部から回り込む地下水の流入を防止するなどの特徴を持つ工法。